

平成 29 年度  
「総合計画策定市民ワークショップ」  
心豊かに暮らせるまちづくりグループ

報 告 書

平成 30 年 3 月

# 平成29年度『総合計画策定市民ワークショップ』

## 《心豊かに暮らせるまちづくり》 市民の提案・意見のまとめ

11月28日から計5回にわたって開催された「総合計画策定市民ワークショップ」では、市民の皆さんからたくさんの意見・提案、感想などが出されました。私たちが日頃感じている素朴な思いや、もっと暮らしやすいまちにしたいとの思いが詰まっています。これらの意見が総合計画に反映され、私たちのまちがさらに心豊かに暮らせるまちになることを祈念して、意見を提出いたします。

「総合計画策定市民ワークショップ」『心豊かに暮らせるまちづくり』グループ

### 【参加メンバー】

氏名	所属団体等
松岡 良典	京都丹の国農業協同組合
吉田 洋平	舞鶴青年会議所
日高 麻希	海上自衛隊舞鶴地方総監部
椋田 玲実	舞鶴医療センター附属看護学校
板東 孝治	新日本海フェリー
岡本 淑恵	NPO法人まいづるネットワークの会
堀口 宏之	舞鶴市PTA連絡協議会
山下 優香	舞鶴YMCA国際福祉専門学校介護福祉学科
高辻 真紀	公募
荒井 誠	市長公室 広報広聴課
中嶋 健太	福祉部 障害福祉・国民年金課
藤村 万紀	健康・子ども部 幼稚園・保育所課 中保育所
佐々木 周平	健康・子ども部 子ども支援課
有本 圭子	教育振興部 教育企画課

### 【検討テーマ】

移住定住（まちなか・農漁村）、環境、生涯学習・地域コミュニティ、行財政改革

## 【主な提案・アイデア】

1. 心豊かに暮らせるまちづくりの最重要課題は将来の舞鶴を担う子どもたちの教育であり、舞鶴市の魅力である「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」をひきつづき推進する中で、小中一貫教育など先進的な取組を進め、子育て世代に選ばれるまち「舞鶴」を目指してほしい。
2. 核家族化が進む中で、育児の孤立化や虐待を予防するためのサポート体制を強化する必要がある。
3. 市内全体で放課後児童クラブのさらなる充実を図るなど、共働き世帯が子どもを安心して預けることができる子育て環境の整備を進めていく必要がある。
4. 将来の舞鶴を担う子どもたちが、ふるさとへの誇りや愛着を育むためには、小中学校が行う教育活動に対して、地元企業や地域が学校を支援しやすい体制を整備する必要がある。
5. 移住定住の促進に向けて、舞鶴の魅力をさらにPRするとともに、移住定住のターゲットを若者だけでなく引退世代も含めて想定し、ターゲットを意識したアピールを行い、さらに幅広い層を取り込む工夫が必要である。
6. 今ある学校施設を有効に活用するため、人口動態等を統計的に分析し、将来の子どもの数を想定した上で、校区の見直しを行うなど、時代や環境の変化に先駆けた検討が必要である。
7. これまで以上に多様な主体が連携して地域課題の解決を図る「新たな地域コミュニティ」のあり方が求められる。
8. 生涯学習について、時代に合った講座を開設するとともに、学習を希望する人と各種運営組織とを繋ぐマッチングサービスを新たに確立すべきである。
9. 環境対策については、事業所や団体などそれぞれが行っている環境保全・環境対策活動も含めて、市が積極的にPRし、連携して市全体の環境活動へ繋げていく必要がある。

10. 行財政改革については、行政も民間の経営的な視点やコスト意識を持ち、与えられた財源を有効活用する視点で取り組むことが求められている。
11. 情報の発信や周知については、情報を届けたい人に確実に届くよう手法や工夫が必要である。市民も積極的に情報を探す姿勢は必要だが、情報を受け取ることを促す更なる啓発が重要である。

### 【意見・感想】

1. 子育てや教育関係のチラシや案内は、子どもでも分かるような表現・デザインにしてほしい。
2. 中高一貫教育など、舞鶴市内での質の高い教育環境の整備を検討してほしい。
3. 見た目では分かりにくい障害を抱える児童生徒もおり、障害について正しく理解する学習の必要性を感じている。
4. 保育士の資格を持っているが、保育の現場で働いていない「潜在保育士」を保育現場に復帰させる取組を進め、保育人材不足に対応してはどうか。
5. 乳幼児教育という重要な役割を担う保育士に対して、業務内容に見合った処遇に改善してほしい。
6. 定住促進に向けて、定年後の自衛隊員への仕事の斡旋などができないか。
7. 移住を考えている人に向けて、もっと人に寄り添った、より具体的かつ現実的なプランを提案できないか。
8. 舞鶴市内で学生時代を過ごす若者が「将来も舞鶴で過ごしていきたい」と思うような印象的な体験ができるよう、企業や教育機関が連携し、さまざまなイベントを企画実施していく必要性を感じている。
9. 公民館を児童生徒の遊びや学習の場として活用することを通して、地域住民や地域団体、企業等を巻き込んだ地域コミュニティの再生や活性化が必要ではないか。

10. 環境に対する意識付けについては、子ども向けの講座の開催や学校での取り組みを充実させるとともに、「かえっこバザール」「クリーンキャンペーン」といった実体験の場をさらに増やすことで、大人も含めた意識改革が生まれるのではないかと感じている。
11. ごみ袋の料金を上げることでごみの減量に繋げるなど、一定の強制力を持たせることも、ある程度は必要だと感じている。
12. 行財政改革については、市内や府北部5市2町との横連携をより一層強化し、全体で取り組んでいくことが必要である。
13. 公共施設については、維持管理経費が多くかかっているため、「利用用が少ないときには館を閉める」「民間へのテナント貸しを検討する」といった対策を進めなくてはならない。

## 【各テーマについての主な意見・感想】

### 《子育て環境について》

#### 【情報発信・周知について】

- 施設や制度の存在を知って利用する人と、存在を知らなくて利用していない人の差が大きいと感じる。サービスを必要とする人にどうすれば情報を伝えられるかが課題だ。
- 対象者へのメール配信など、他の情報提供の方法を検討してはどうか。
- 市ではホームページや広報紙など、多様な方法でたくさんの情報を発信している。情報を受け取る側も自分に必要な情報がないか、積極的に探す姿勢を持ってほしい。
- 興味がない人に情報を伝えることは難しいと思う。色々な媒体で情報を伝達する必要性も感じるし、受け取る側の意識も変わらないといけない。情報を受け取ることを促す啓発も大切だと思う。

#### 【放課後児童クラブについて】

- 保育園は、待機児童もなく、子どもを安心して預けることができる環境がある。一方で、小学生になると一部の小学校で4年生以上の児童が放課後児童クラブを利用できなくなり、放課後や休業中の子どもの居場所に不安を感じている。小学校により高学年が利用できないという不公平感をなくし、どの学年も利用できる体制を整備してほしい。

#### 【その他について】

- 「子どもなんでも相談窓口」は重大な問題を抱える人が相談するイメージがある。チラシやパンフレットは、親だけでなく子どもも気軽に何でも相談できることを、分かりやすく表現し、柔らかいイメージのデザインにした方が良い。
- あそびあむは乳幼児向けの施設というイメージがあり、小学生以上の幅広い年代向けの施設というイメージがなかった。

### 《保育について》

- 潜在保育士を活用し保育人材不足に対応してはどうか。
- 市立の保育所では、年度途中で産休に入る保育士がある場合、代替の保育士を確保するのが困難な状況がある。保育の質の向上などのため、研修に参加する機会も増えており、補助的な保育士確保の必要性を感じている。
- 子ども総合相談センターのアドバイスを受けて保育所の一時保育を利用する人や、「まいたん」を見て園庭開放に訪れる親子が増えている。市全体で子育てしているお母さん、悩みを抱えているお母さんの支援をしていく必要があると思う。
- 乳幼児期のしつけや教育は人間が成長する上で、とても重要な役割を果たすと思う。根気強く心をこめて保育してくれる保育士には、業務内容に見合った処遇に改善してほしい。

## 《教育について》

### 【小中一貫教育について】

- 小学校 6 年時に中学校教員から専門的な内容の授業を受ける機会があり、中学校での学習内容に興味を持つことができたため、スムーズに進学できて良かった。
- 小中、小中連携の取り組みは、中 1 ギャップの解消に有効な良い取り組みだ。小学校で一部教科担任制や中学校部活動体験などの小中一貫教育の取り組みを体験できるので、中学校進学の見通しを立てることができ、とても良いと思う。

### 【教育全般について】

- 見た目では分からない障害を抱える児童生徒もおり、理解学習（障害がある子どもを理解するための学習）の必要性を感じている。子どもが理解学習することにより保護者の理解も高まると思う。
- 自衛隊に勤務する子育て世代の中には、福井県に自宅を構え、舞鶴市に勤務する人が複数いる。福井県は子育て支援が充実しているのではないか。定住人口を増加させるためには、子育て支援の充実は大切な要素だと思う。
- 中高一貫教育など、市内で質の高い教育環境の整備を検討してほしい。福知山市をはじめ市外への通学には通学時間や交通費の負担が大きい。
- 舞鶴市では先進的な授業などを学ぶため福井県に教員を派遣している。すぐに成果は出ないかもしれないが、子ども達の学力や教員の指導力の向上にはとても良い取り組みだと思うので今後も継続してほしい。
- 地元企業として多くの子どもに「職場体験をしてほしい」という思いがあるが、どこに PR していいかわからない現状がある。例えば、学校と企業が情報交換を行い、「職業体験受入れ可能な企業の「登録バンク」のようなシステムをつくり、子どもたちがいろいろな企業で職業体験ができるように工夫すると良い。

## 《移住定住について》

### 【移住定住全般について】

- 自分は舞鶴で就職したいと考えているが、市外から来た学生は舞鶴から出て就職したいと考えているのが現状。
- 周りの学生は市外に出て就職を目指す人が多い。どうしても「都会の方がオシャレ」など感覚の部分で出て行ってしまいがち。出産など、人生の転機がふるさとに帰る「きっかけ」になる。そういう時に、舞鶴に移住の環境が整っていれば安心して帰って来ることができると思う。
- 実際に舞鶴に移住した人の生の声を動画や説明会で移住希望者に届けることができないか。
- YMC A のように学ぶ場が増えれば学生層がもっと舞鶴に戻ってこられるのではないか。
- 舞鶴市の PR 動画は非常に良かった。若い世代へのアピールに動画は有効だと思う。より具体的かつ現実的なプランを提案して、それにヒットする人を捕まえていくことが定住のきっかけ作りには必要だと思う。
- 定住者が加佐などで田舎暮らしを満喫した後、年を取ったら医療機関や買物の便が良いまちなか地域で暮らすことができるといった老後まで安心できるプランを打ち

出せないか。

- 移住定住を促進する側も、地域や集落のキーパーソンとなり得る個性の強い「人材」を意識的に増やすようにしないと、ただ漫然と移住者を増やすだけでは真の意味の定住に繋がらないのではないか。
- 行政単独では限界があるので、民間と連携して行政のできない部分を補完しあえるよう調整することが不可欠。

#### 【移住者を誘引する取組について】

- 長野県塩尻市では一定期間の定住を条件に市の特産品をプレゼントしていると聞く。舞鶴市においても分かりやすいインセンティブはないか。
- 移住を考えている人に向けて、施策や事業ではなく、個人に寄り添ったプランが必要ではないか。舞鶴の良さをPRしても、その人にとっては関係のない内容であることもある。より具体的かつ現実的なプランを提案できれば、背中を押してあげられると思う。
- 移住した後の人生設計までプランニングする必要があると思う。
- 都会に似せることはできない。田舎だからこそ出せる「ほっこり感」を求めて舞鶴に帰って来られるようにできないか。

#### 【ターゲットについて】

- 定住に関して、社会減の大きな要因の一つである定年後の自衛隊員への仕事の斡旋などができないか。舞鶴に仕事がないために家族を連れて故郷に帰る人もいる。
- 自衛隊員の中には「田舎暮らし」をしたい人も潜在的に多くいる。行政として定住促進のアピールがないと思いきりつかない。例えば「人口減少の進む集落に、退役した自衛隊員の家族が溶け込んで、村の若手として地域を担う」といった明るいアプローチがほしい。
- ハローワークと連携して、官公庁からの退職者の仕事のあっせんとセカンドライフプランが提案できれば、定住に繋がるのではないか。
- 進学や就職のために舞鶴を離れた人をターゲットに、定年を機に舞鶴に帰ってきてもらうアプローチができないか。例えば、同窓会などへの働きかけをしてはどうか。
- 引退世代に向けて「第二の人生を舞鶴で」「セカンドライフを舞鶴で」というアピールも良いのではないか。まだまだ活力ある世代なので、若者だけでなく幅広い層の取り込みが重要だ。
- 子ども達に舞鶴に残ってもらうためには、まず大人たちがふるさとの魅力を伝えられるようにする必要がある。今地元にいる人が出ていくのを防ぐ施策を充実すべき。
- 仕事と育児の両立がしやすい環境をつくることで、子育て世帯の定住を促進できる。子育てを応援する企業に行政が認定・助成を行う制度はどうか。どの企業も自助努力には限界があるので、行政が率先して補助を出さないと現状の打開は難しいのではないか。

### 《生涯学習・地域コミュニティについて》

#### 【地域コミュニティについて】

- 自治会活動を負担に感じる人も多い。負担ではなく前向きに参加できる内容になれ



ば、地域の繋がりも醸成できるのでは。解決の手段が難しい。

- 若い世代に自治会長を託すなどして壁をなくしていくことが必要だと思う。
- 地域のイベントを見ていると、年配の人と子どもはよく参加しているが、中間の層が「空洞化」している。地域活動に束縛されたくない人、根本的に時間が取れない人も多く、なかなか解決策は見つからない。皆が意識的に取り組まないとこのままではコミュニティが一気に崩壊してしまう危惧がある。
- 既存のコミュニティに新参の人が入り込みにくい状況がある。核家族化や共働き世帯が増え、時間的余裕もない中、地域に飛び込んでいく一歩が踏み出せない。壁を感じてしまう。その結果、古くから住んでいる人たちに地域活動が任せきりになっている。
- 一方で子どもの居ない独身世帯は、地域と関わるきっかけがない。
- 私の住む地域では、年配の人が子どもの見守り活動などをしてきていることもあり、子ども達の方が地域に馴染んでいる。それを見て自分たちも地域の人たちと挨拶をするようになるなどの気付きがあった。子どもをきっかけに地域コミュニティを再興できないか。
- 自分の地域では、長期休暇のときに老人クラブの人が子どもを集会所に集めて、囲碁などして遊んでいる。集会所によって地域のコミュニティが深まっている。
- 私の住む集落では、お酒の販売イベントや消防団の集まりなど、地域の集会所を活用している頻度が高い。
- 大きい自治会では会長の顔も知らない所がある。周辺の顔が見える範囲で自治会を分割して、もう少し小さい地域で活動してはどうか。

#### 【生涯学習について】

- 公民館を学校帰りの遊び場など、児童を預かる場としてもっと活用すべき。
- 生涯学習は、年配向けの講座が多い印象を受ける。ダンス教室や資格取得の実情に合った講座を増やせば、利用者の幅も広がると思う。
- どうしても年配の人の利用が多い。子育て支援を含め、対象の年齢層を限定しない全世代型と公民館となってほしい。
- 子どもが公民館を利用すると、親世代も行くことになるので利用率が高まるのではないか。
- 舞鶴市全体の生涯学習活動を公民館で担ってはどうか。
- 昼間の講座が多いので、夜間や休日開催の講座をもっと増やせば仕事帰りにも利用しやすく、「空洞化」している世代も来やすいのではないか。
- 学習したい人と、それを支援したい組織や団体を繋ぐ「バンク」のようなマッチングサービスができないか。
- 同じ舞鶴でも地域差、住民性に違いがあり、公民館機能もそれに合わせて細やかに対応する必要があると思う。

#### 《環境について》

##### 【ごみ対策について】

- ごみを減らすことは市民の理解、協力無しでは進まない。ごみ袋の料金を上げるなど、強制力をもたすこともある程度必要ではないか。最初は市民からの抵抗もあるかもしれないが、時間の経過と共に理解がされると思う。また、値上げと同時に所

得など一定の要件で、ごみ袋を無料配布するなどの配慮は、欠かしてはならない。

- 商業施設などに資源ごみを集積できる機械を設置し、回収場所を増やせば、ゴミの回収率が上がるのではないか。
- 不燃ごみの集積について、マイリサイクル店でもポイントをもらえるようにすれば、ゴミを捨てる場所の選択の幅が広がるのではないか。
- 各スーパーの不燃ごみ回収を福祉施設の入所者が回収されている。事業所の垣根なく舞鶴市全体でリサイクルに取り組んでいくことが大切である。
- コンビニへの家庭ごみの投棄が問題だ。舞鶴市民だけでなく、市外のゴミ投棄も多いが、ごみの回収場所の少なさが要因のひとつでもあると思う。
- リサイクルセンターのリサイクル品の利用者が少ないように感じる。インターネットで品物をアップするともっと活用されるのではないか。
- 子育て機関や個人での衣類のリサイクル（交換会）が行われているが、認知度は低い。また、平日昼間の開催が多く、利用できない人も多い。小学校行事や保育所での実施など、利用者の増加に繋がる場所設定も必要だと思う。

#### 【環境学習について】

- 「みどりのカーテンプロジェクト」など、市役所の庁舎や学校の校舎を使って率先して取り組んでいくと周囲に対してPR効果があると思う。
- 子ども向け講座の開催や学校で環境の授業（実習）を取り入れるなど、小さいときから環境に対する意識づけに取り組むことが必要ではないか。
- 子どもが小学校で環境問題について多くのことを学んでいることが感じられる。マイバックの持参やエコキャップの活用方法など、子ども自ら行動し、教えられること多々ある。子ども達は素直で意識付けもしやすい。環境問題について舞鶴市内のどの教育機関においても均一に学べる土台作りが必要である。
- 持ち寄ったリサイクル資源を使用し、大規模な作品を製作する市民参加型のプロジェクトの実施をしてはどうか。市役所に展示することで舞鶴市民にも関心が広がると思う。環境資源プロジェクトは、もっとインパクトのある内容が必要である。
- 小学校で、環境問題についての授業を取り入れることが大切である。バイオマスの発電機を設置し、野菜栽培（地産地消）から出た生ごみを活用して発電できるようにすることで、地産地消からゴミ問題への学びに繋がるのではないか。
- 舞鶴市では、クリーンキャンペーン活動が授業の一環として全員参加であり、舞鶴市の環境問題への熱意を感じた。以前に住んでいた地域（福井県）では希望者のみであった。
- 「かえっこバザール」や「クリーンキャンペーン」のような実体験をすることで、大人も含めて意識が変わっていくのではないか。

#### 【環境全般について】

- 環境対策に取り組んでいる事業所や団体はあるが単独での取り組みとなっている。市が出前講座をするなどマッチングをしていく必要がある。

### 《行財政改革について》

#### 【公共施設の活用について】

- 公共施設維持管理経費の6割を税金で負担していることに驚いた。機能集約や集合化、公共施設の状況を再度精査し民間に売却するなどの対応が必要だと思う。

- 公共施設においては、利用状況等を検証したうえで、「利用が少ないときには館を閉める」「公民館のテナント貸しを検討する」といった対策をとるべきではないか。
- 公民館は、昼間はたくさんの利用があるが夜は空いている。仕事帰りに寄れる公民館を目指し、地域の活性化に繋げたい。
- 公共施設の利用率が36.5%とあったが、例えば中央公民館だと昼間の利用は多いが22時まで空いていることで利用率が落ちていると思うので、全体の利用率（数字）だけで判断しない方が良くはないか。
- 利用者の少ない夜間を隔週開所にするなど、開所時間の見直しも検討すべき。

#### 【その他について】

- 市職員も民間のような経営的な視点・コスト意識をしっかりと持つことが必要。
- 自衛隊は、人件費を抑えるためにも、再任用制度を活用している。
- 民間企業では、経営状態や個人の実績によって給与は変動する。市の職員もがんばった分を評価して給与に反映させる「経営的な視点」がいると思う。
- 市内や府北部5市2町との横連携をもっと強くして、全体を挙げて取り組んでいくことが必要。
- 市役所の窓口については、フレックスタイム制度の導入により、各部署での開設時間が延長できれば、そこに恩恵を受ける市民もたくさんいると思う。